

企業を取り巻くリスクの変化と 損保業界の取組

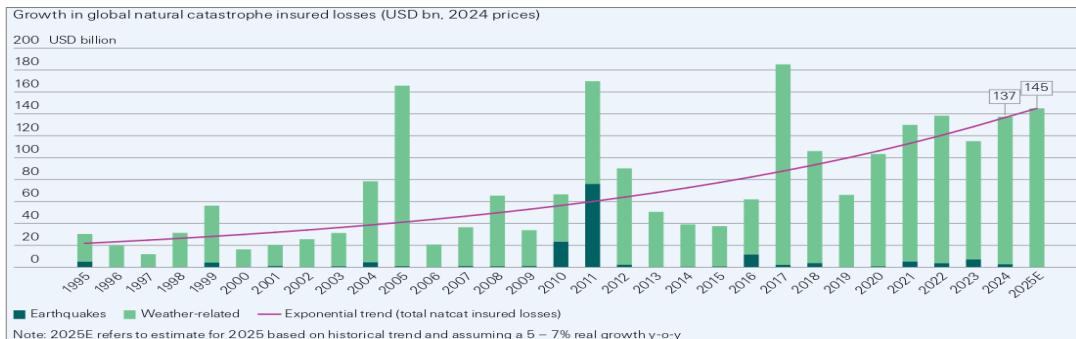
2025年12月10日
一般社団法人 日本損害保険協会

1. 企業を取り巻くリスクの多様化と連鎖化

自然災害の頻発・激甚化に加え、地政学リスク、サイバー攻撃、パンデミックなど、企業を取り巻くリスクは多様化・連鎖化している。保険金支払の増加や再保険コストの上昇などを背景に、保険の「価格」や「供給能力」に制約が生じており、リスクに対する多面的な対策・取組が必要な状況にある。

○自然災害による損害規模の拡大

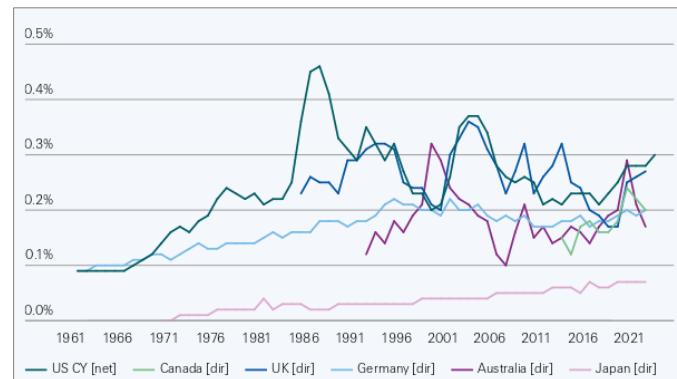
- 世界保険市場における自然災害損失は、過去30年で約4倍に拡大している
- 自然災害の頻発・激甚化に加え、インフレ等を要因としたコスト上昇が損害規模拡大のもう一つの要因となっており、今後も拡大する見込み



出典：Swiss Re Institute, sigma 1/2025 - Natural catastrophes: insured losses on trend to USD 145 billion in 2025, April 2025

○ソーシャルインフレーションの進行

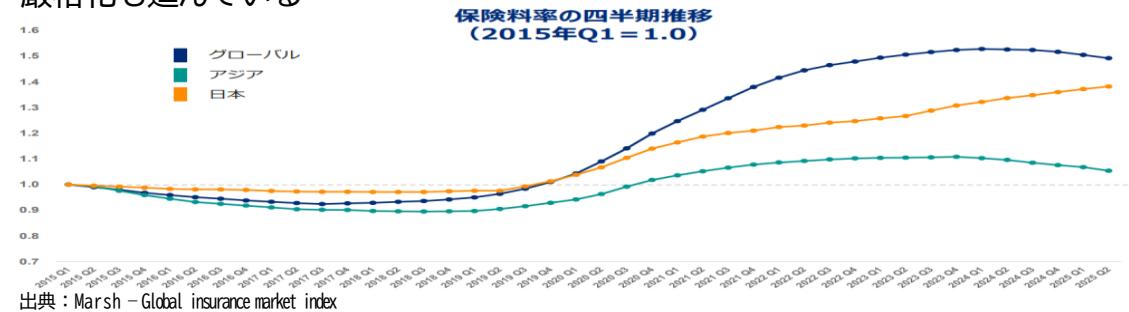
- 訴訟の大型化や賠償額の高騰など、社会的・法的・文化的要因により損害賠償コストが上昇している
- 経済インフレや賃金上昇を上回るペースで損害コストが増大し、保険引受コストの上昇要因となっている



出典：Swiss Re Institute "sigma 4/2024 - Social Inflation - Litigation costs drive claims inflation"

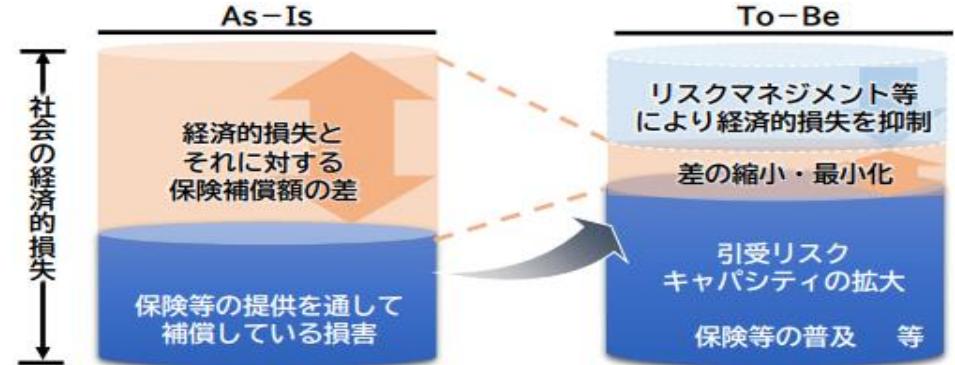
○保険料率の上昇

- 自然災害の増加やソーシャルインフレーションの進行に加え、日本特有の商慣習の見直し影響もあり、日本の企業向け保険料率は、中長期的に上昇している
- 特に企業向けの保険契約においては、一部の保険種目を中心に引受条件の厳格化も進んでいる



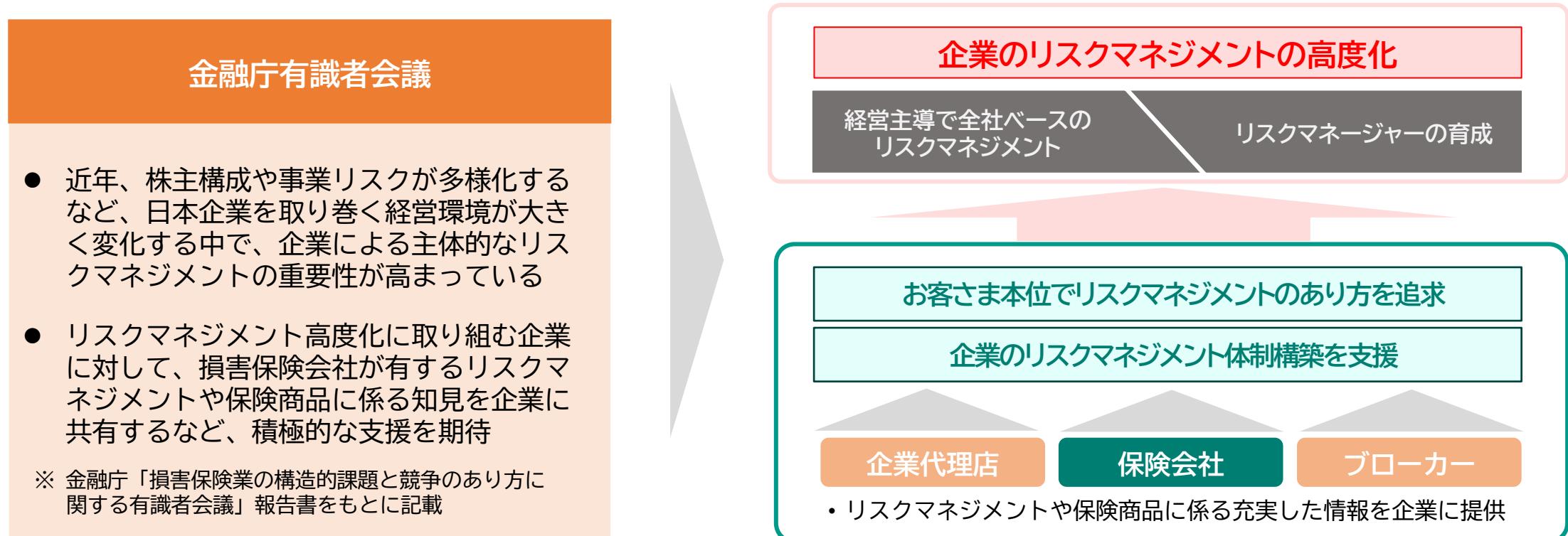
○経済的損失の補償の現状・必要な取組

- 保険等を通じて経済的損失をカバーする取組に加え、リスクの発生自体を抑制・低減する取組を進めることが重要



2. 企業のリスクマネジメント高度化の必要性

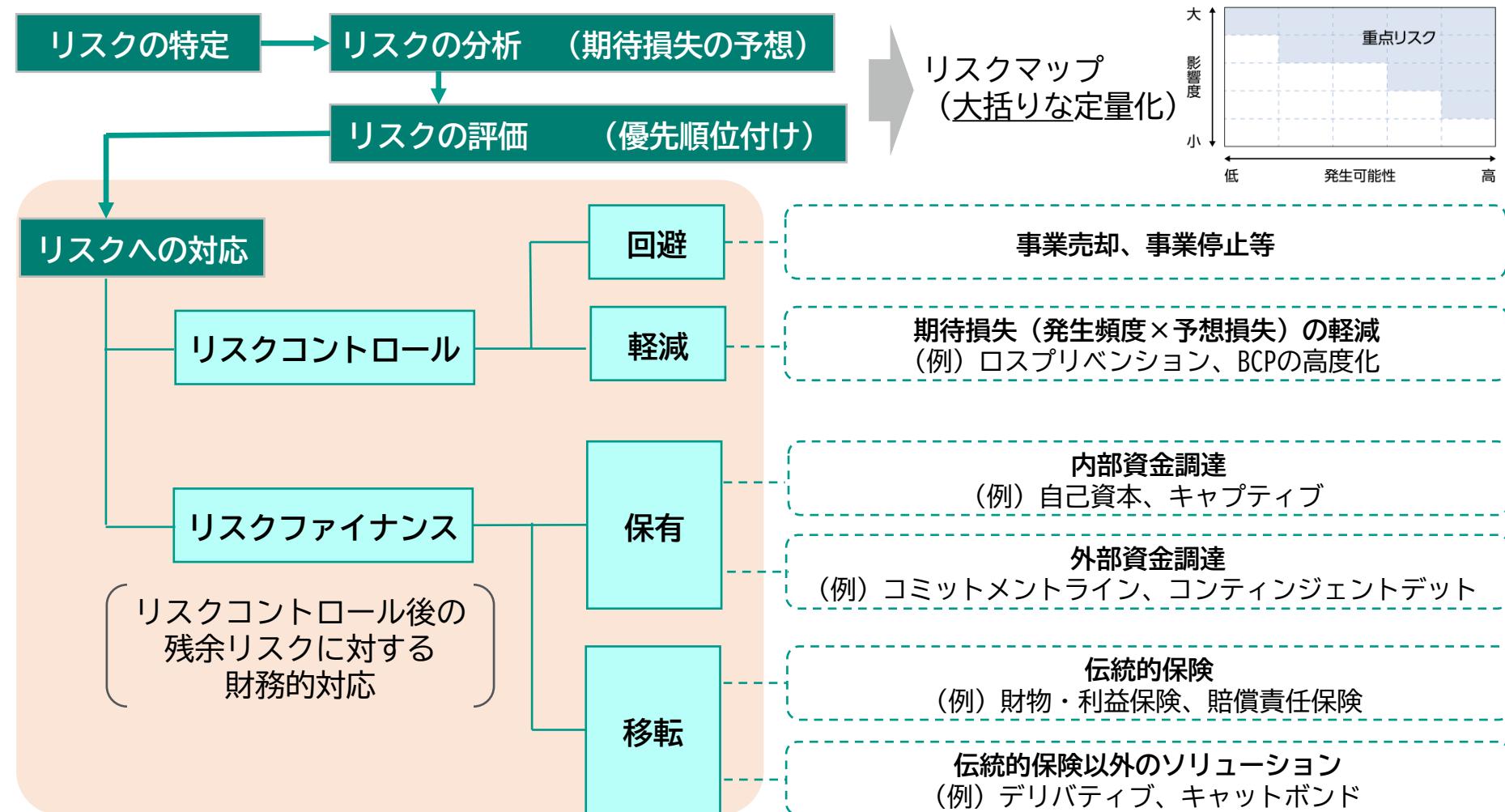
外部環境の変化を背景に、企業自らがリスクを把握・管理し、経営の中核にリスクマネジメントを組み込むことが求められている。金融庁有識者会議でも、保険会社の持つ知見を企業に共有し、社会全体でリスク対応力を底上げしていくことの重要性が指摘されている。



リスクマネジメントは、経営の中心課題
自社のリスクを正しく把握・管理し、適切にリスクコントロールを行うことが重要

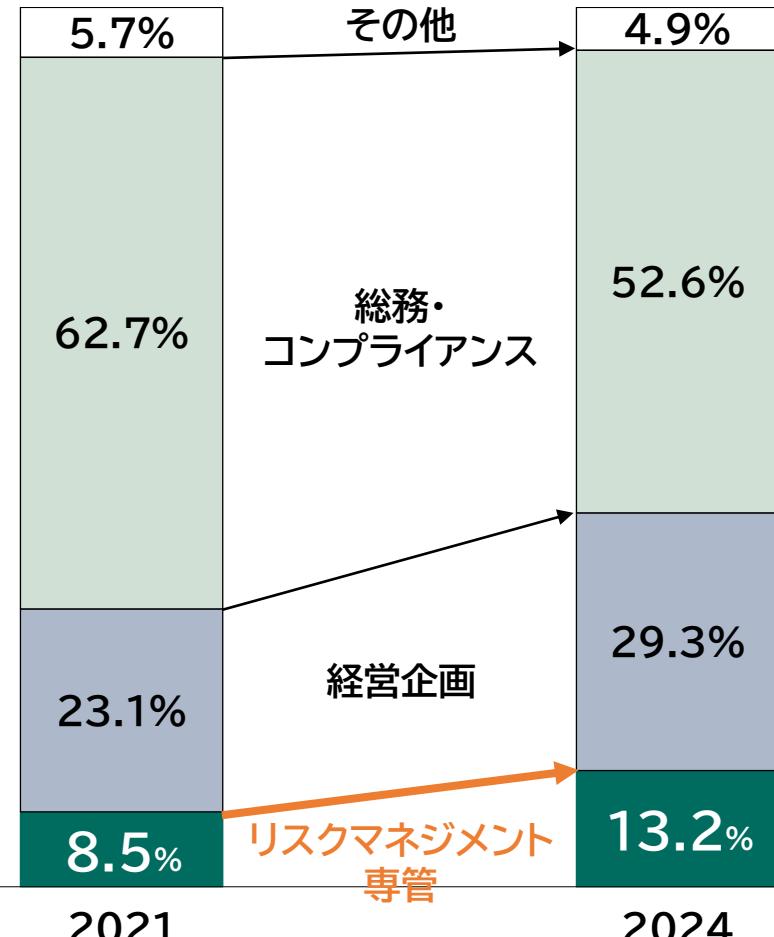
2. 企業のリスクマネジメント高度化の必要性

企業のリスクマネジメントにおいては、リスクの“見える化”と“定量化”が不可欠となる。リスクへの対応を適切に設計するためには、PML(Probable Maximum Loss)等による損害想定を基に、経営判断としてのリスク選択を行うことが重要となる。

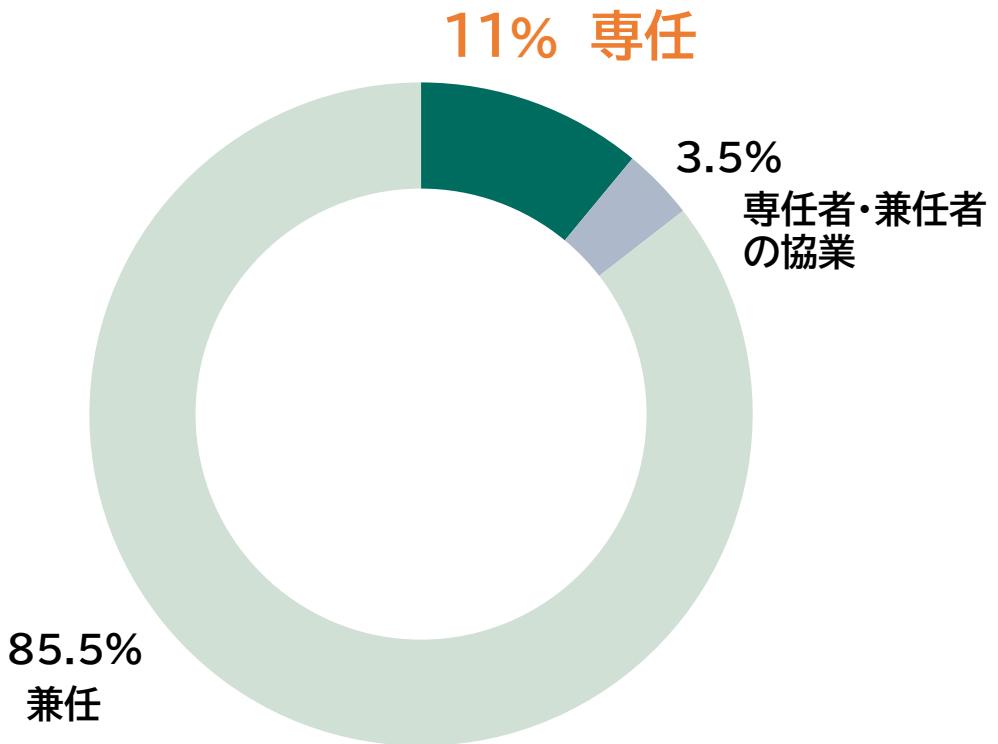


(参考)国内企業のリスクマネジメント専管部署・専任担当者の設置状況

リスクマネジメント専管部署の設置状況



リスクマネジメント担当者の他業務兼務状況（2024年）



※リスクマネジメント専管の独立部署を設置している企業を除く

3. 損保業界が目指す方向性

企業を取り巻く環境変化に加え、損保業界における健全な競争環境実現のためにも、顧客企業にコーポレートファイナンスの観点からリスクに対する知見を高めていただき、保険商品・サービスの品質を正しく評価することを含め、自社に合ったソリューションを適切に選択できる体制を整えていただくことが望ましい。

⇒損保業界として、顧客企業のリスクマネジメント高度化を支援する取組を実施

取組例①:企業向けリスクマネジメントセミナー

- 企業の経営者や財務責任者のリスクマネジメント意識向上をねらいとした第2回損保協会主催セミナーを11月に開催し、641名が参加。
- 経済産業省による基調講演に加え、慶應義塾大学・柳瀬典由教授による企業経営者がリスクマネジメントに取り組む意義をテーマとした講演、パネルディスカッションを実施。



取組例②:リスクマネージャー育成講座の立ち上げ

- 業界共通のリスクマネージャー育成講座の立ち上げを検討中。
- 企業でリスクマネジメントに携わる方を対象に、業界共通のカリキュラムとして必要なスキル・知識等を体系的に提供し、専門性を備えたリスクマネージャーの育成を目指す。
- 将来的には、リスクマネージャー資格制度への発展や、リスクマネジメント高度化に取り組む企業を社会的に評価する制度の創設等も視野に入れて検討。

As-Is

- ✓ 一部の損保会社が各社各様の育成講座の提供を開始

To-Be

- ✓ 業界共通のカリキュラムを構築し、提供する知識等を標準化
- ✓ 将来的に、資格制度への発展や、取り組む企業を社会的に評価する制度の創設等を検討

4. 損保会社の具体的な取組事例(三井住友海上の取組事例)

損保各社においても、顧客企業のリスクマネジメント高度化を支援する取組を推進している。補償の提供にとどまらず、企業のリスクコントロールやリスク保有の取組を支援するサービスの提供等を通じて、企業のリスク対応力を総合的に高める取組を強化している。

アンダーライティングの高度化

M&A領域におけるタイムマシン アンダーライターズの買収

- 表明保証保険のアンダーライティング業務を委託する(株)タイムマシンアンダーライターズを買収
- 国内企業のM&A取引件数増等を受け、法律・会計の高度な専門性を要する表明保証保険のアンダーライティング機能内製化により、当社引受体制をより高度化

三井住友海上

一定の範囲内でアンダーライティングを業務委託

TMU社

補償前後のソリューション提供

MS & ADサイバーリスクファインダー

- ハッカーと同じ視点による、被害想定額・脆弱性・対策等の診断に加え、リスク検知のアラート、専門家によるオンライン相談等により、サイバーリスクに関する予防対策をサポート



キャプティブ関連支援サービスの強化

既存のシンガポール※に加え、近年日系 キャプティブの設立が増加する米国ハワイ にキャプティブマネジメント会社を設立

※MS&ADホールディングスのインタ総研が1998年に設立

- 米国ハワイでの日系キャプティブの設立・運営で業界トップクラスの実績をもつアラカイグループと合弁会社設立
- キャプティブ設立と運営・管理を支援するサービス体制を強化し、リスクマネジメント高度化を支援

三井住友海上

保険引受、
アンダーライ
ティング

インタ総研

コンサルティング

企業

↓ 設立

キャプティブ

キャプティブマネジメント会社

↑ キャプティブ関連支援サービス